

軽度知的障害者の進路選択や日常生活 での重要な意思決定に関する実態調査

日本財団 公益事業部

1. 調査について
 - (1) 実施背景
 - (2) 調査方法
 2. 進路選択に係る意思決定について
 3. 結婚・恋愛に係る意思決定について
 4. まとめ
- 【参考】その他調査結果

1-1. 実施の背景

▶調査実施の背景

18歳（高校3年生程度）という時期は、成人を前に、その後の就職や進学といった進路の選択、恋愛・結婚を含めた生活をどう組み立てていくのかなど、卒業後の人生のさまざまな選択に迫られる重要な時期です。

しかし、知的障害のある学生が卒業後の進路などを主体的に決めることは簡単ではなく、周囲の大人が「良かれと思って」本人の選択をサポートするケースが多くみられますが、本人も周囲の大人も、そのリスクを認識している人は少ないかもしれません。結果として、周囲のサポートが行き過ぎたり、選択した結果が実は本人の本来の意思に沿っていなかったりといった可能性も含んでいますので、リスクを把握した上で支援していく必要があります。

障害者権利条約には「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」とある一方で、知的障害のある学生が、人生の選択に関して自分の意思をどう反映させているのか、どのように周囲のサポートを受けているのかといった調査報告は少なく、その実態がまとまったものではありません。

このような状況を踏まえ、日本財団では、彼らの意思決定の実態を把握し、知的障害のある若者の意思形成、意思表出、意思決定に関する支援に役立てるため、横浜市教育委員会及び市内の3つの特別支援学校の協力を得て、軽度知的障害のある高校3年生を対象として対面アンケート形式による意思決定に関する調査を実施しました。

1-2. 調査方法について

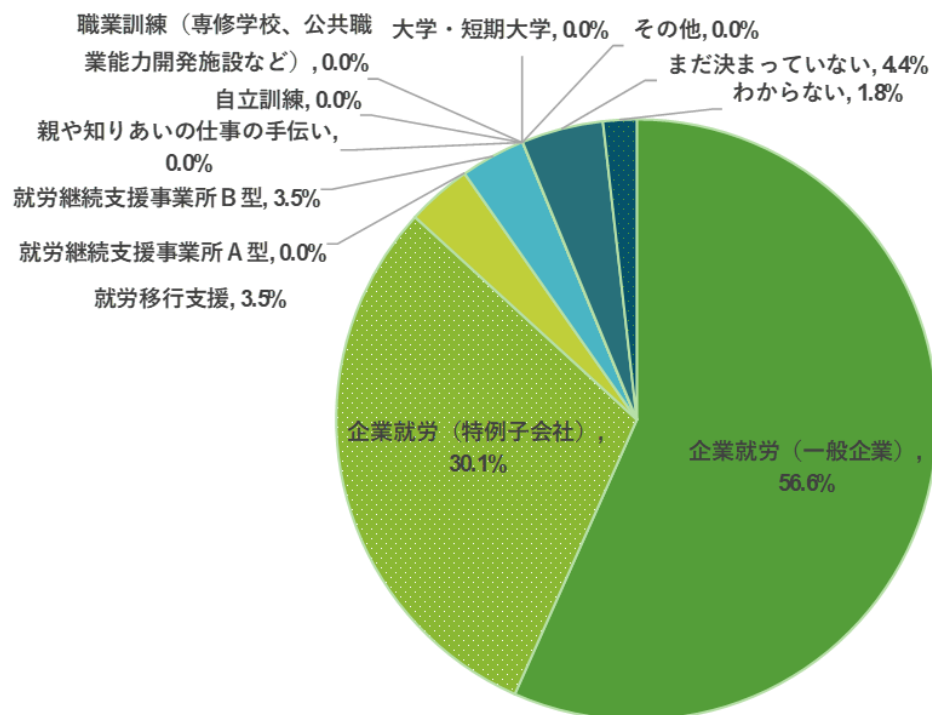
- ▶調査方法：W E B 調査もしくは紙調査票にて実施した。
匿名式として、先生や保護者に回答内容を見られない方法で実施した。
- ▶調査時期：令和7年2月、授業時間内に実施。
回答の前に、調査の趣旨、回答方法について調査員が説明を行った。
必要に応じ、調査員が個別に回答のサポートを行った。
- ▶調査項目：第1部（進路について 選択式12問）
第2部（恋愛・結婚について 選択式16問）
第3部（高校卒業後に仕事や生活をするにあたって楽しみにしていること
自由記述式1問）
- ▶協力校：（軽度知的障害者を対象とする3校）
対象者：（高校3年生のクラス数、在籍者数） ※令和7年2月現在
 - ・横浜市立日野中央高等特別支援学校（8クラス、61名）
 - ・横浜市立二つ橋高等特別支援学校（5クラス、38名）
 - ・横浜市立若葉台特別支援学校（3クラス、29名）
- ▶回収状況：113名（調査日の登校生徒113名全員が回答。回収率100%）

2-1. 進路の選択

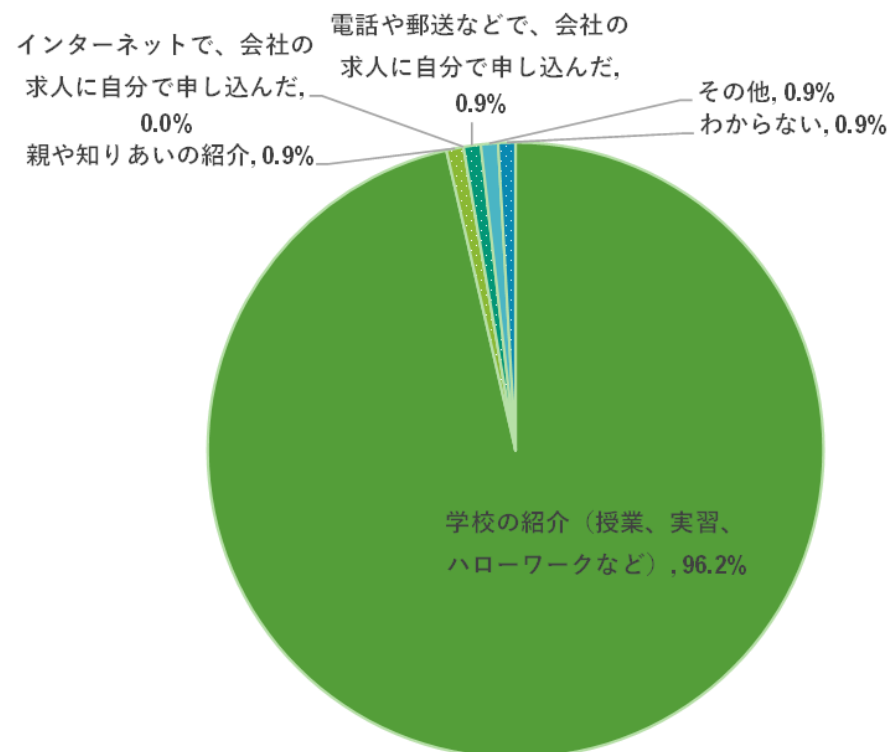
- ▶進路の選択について「企業就労（一般企業）」が56.6%、「企業就労（特例子会社）」が30.1%と、進路が企業への就職という人はあわせて86.7%であり、軽度知的障害のある学生の就労が進んでいることがうかがえる。
- ▶96.2%が「学校の紹介」で進路先を決めている現状が明らかとなった。

【就職予定の方】

問2 高校卒業後の進路の予定（1つ選択）



問3 最終的な進路を紹介されたところ（最も近いもの1つ選択）

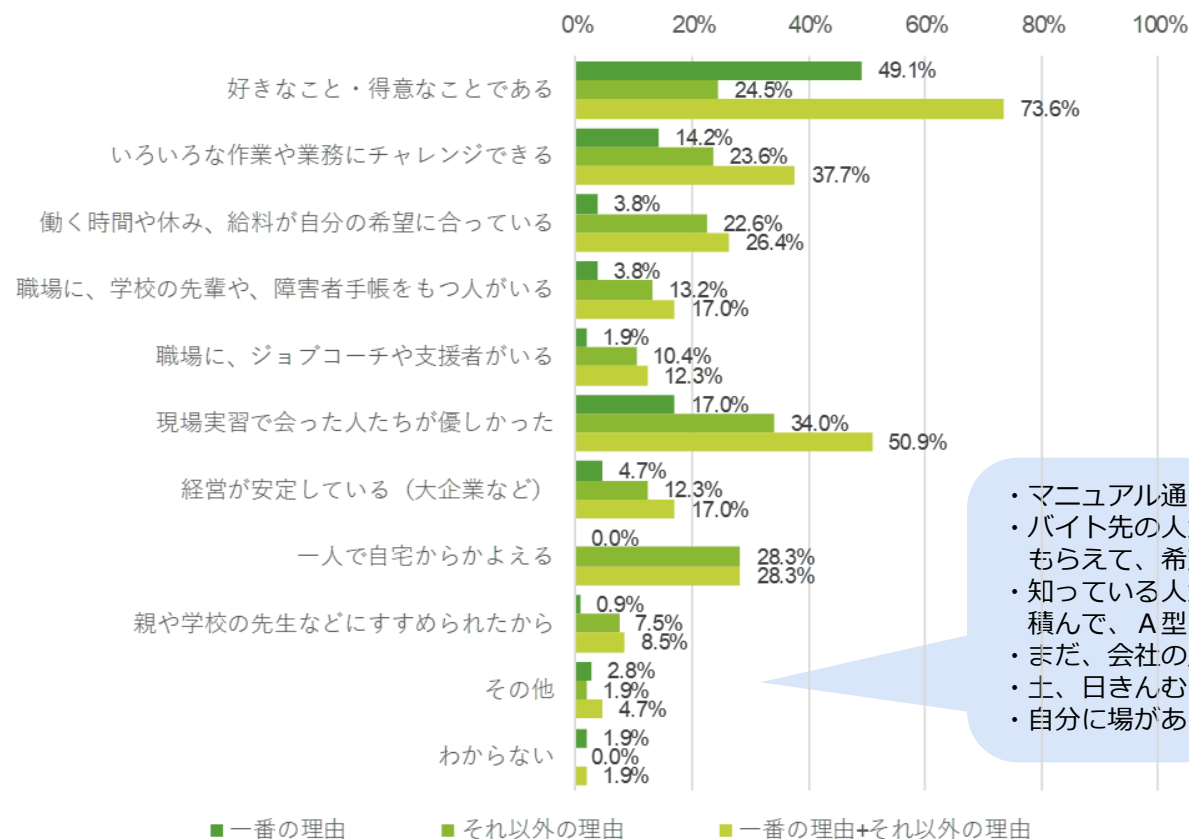


2-2. 進路の選択理由

▶その仕事を選んだ一番の理由は「好きなこと・得意なことである」が約5割で最も多く、やりたいことができる仕事を選ぶことができている人が多い。

【就職予定の方】

問4 その仕事を選んだ理由（一番の理由は1つ選択、それ以外の理由は複数選択）

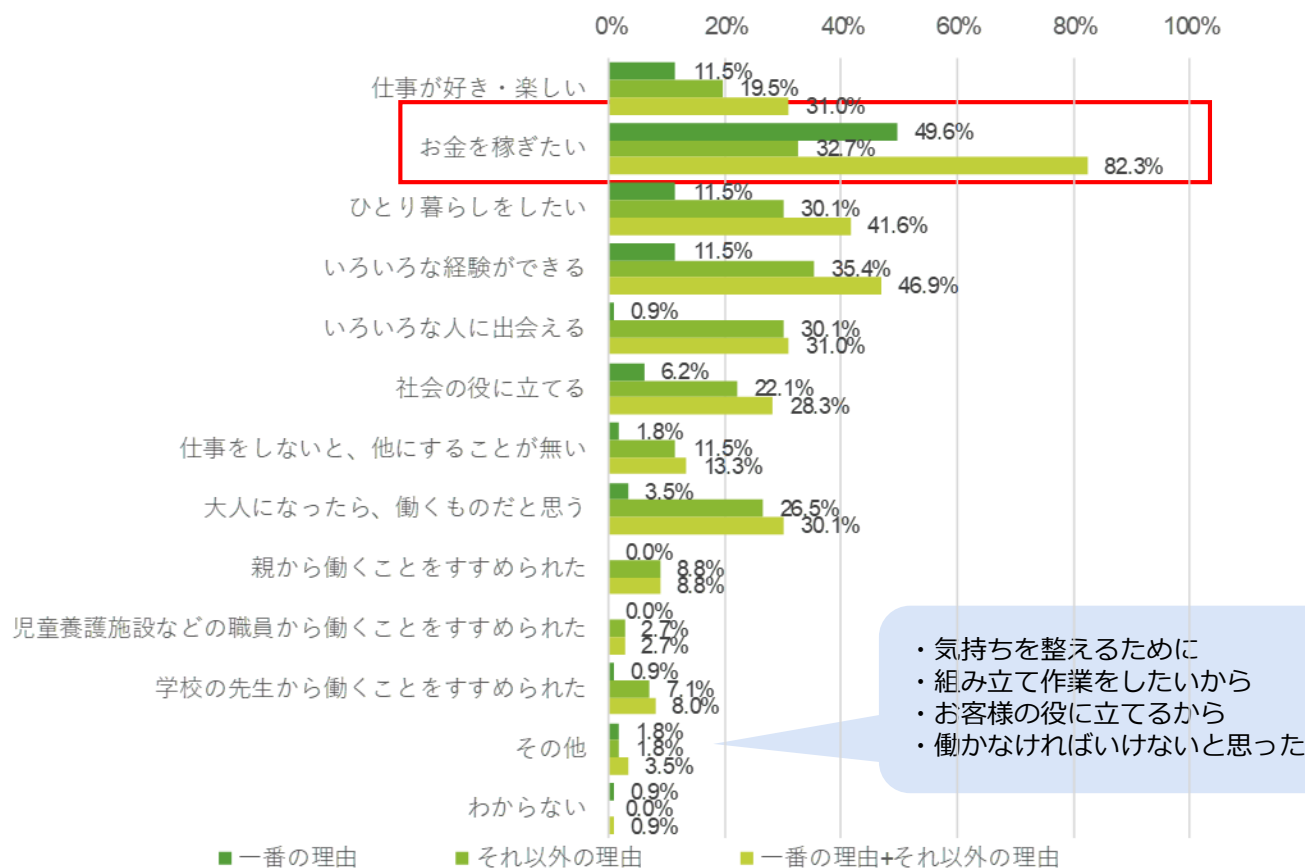


- ・マニュアル通りにやるので覚えやすいから
- ・バイト先の人が優しくて新しい仕事をもらえて、希望を聞いてくれるからです。
- ・知っている人がいるからです。B型で経験を積んで、A型に行きたいから（同じ所の）
- ・まだ、会社の見学をしていないからです
- ・土、日きんむになれない/リズムがかわる
- ・自分に場があっていたから

2-3. 働く理由

▶ 「お金を稼ぎたい」を一番の理由として選択した人が49.6%で最も多く（その他の理由として選んだ人も最も多く）、働くことはお金を稼ぐことであるという意識が強い。

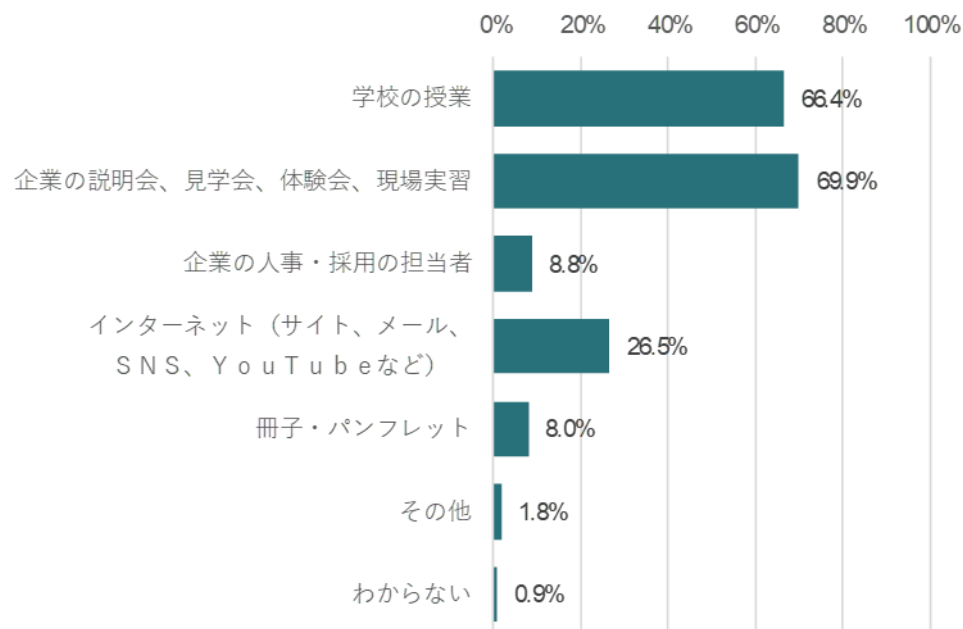
問5 なぜ働こうと思うか（一番の理由は1つ選択、それ以外の理由は複数選択）



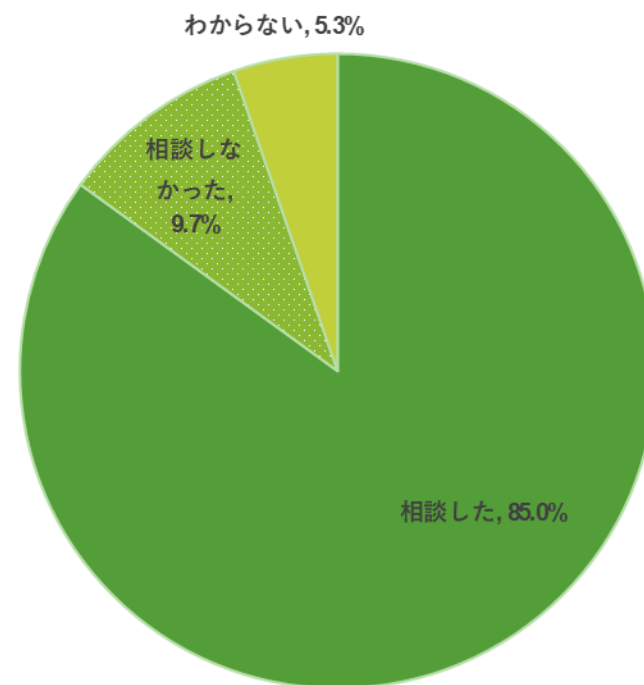
2-4. 進路選択の際の情報収集先

- ▶進路の情報収集は主に「企業の説明会、見学会、体験会、現場実習」と「学校の授業」であり、学校が提供した機会を活用して情報を収集していることがうかがえる。
- ▶進路については誰かに「相談した」が85.0%である。

問6 進路を考えたときの情報収集先
(複数選択)



問7 進路を考えたときに誰かに相談したか
(1つ選択)

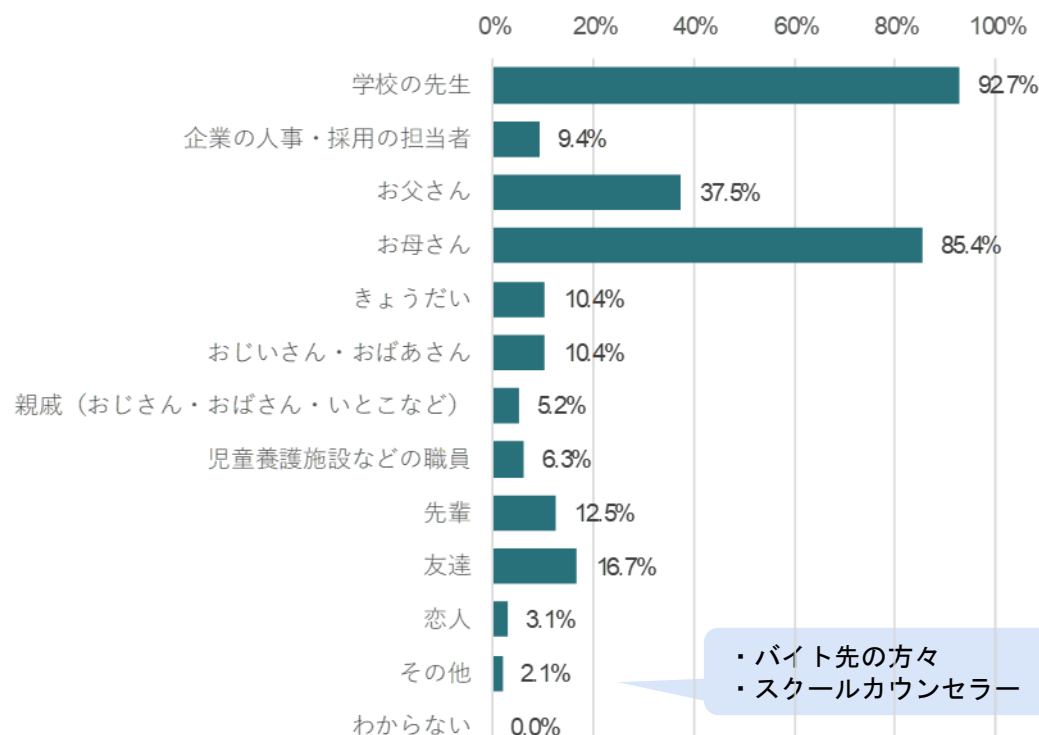


2-5. 進路選択における相談相手

- ▶ 進路の相談相手は、「学校の先生」が92.7%、「お母さん」が85.4%となっている。
- ▶ 「お父さん」も37.5%と他の選択肢よりは多いものの、相談相手がある程度固定化している。

【進路の相談をした方】

問8 進路を考えるとときに相談した相手（複数選択）

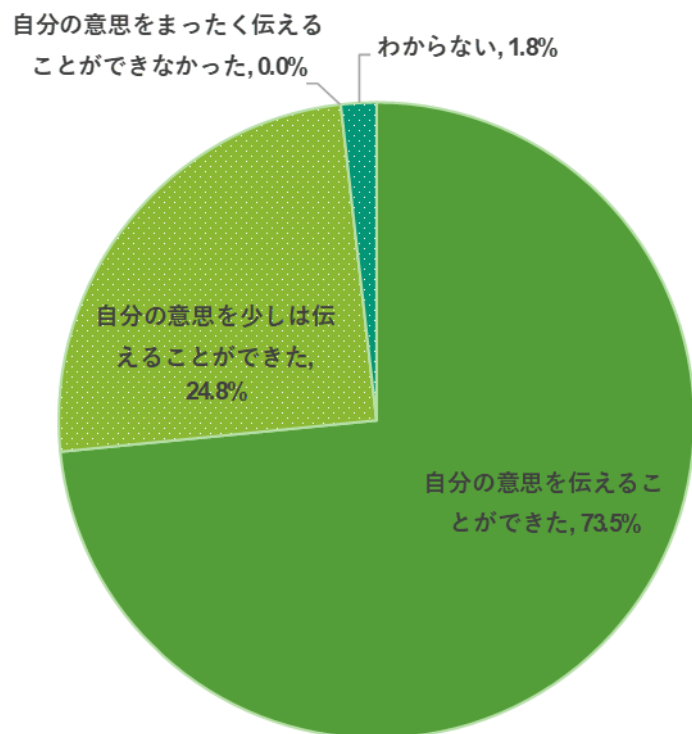


※『その他』として回答のあった「デイサービス」、「基幹支援相談センター、児童相談所」、「基幹支援相談センター」は『児童養護施設などの職員』に振り替えた。

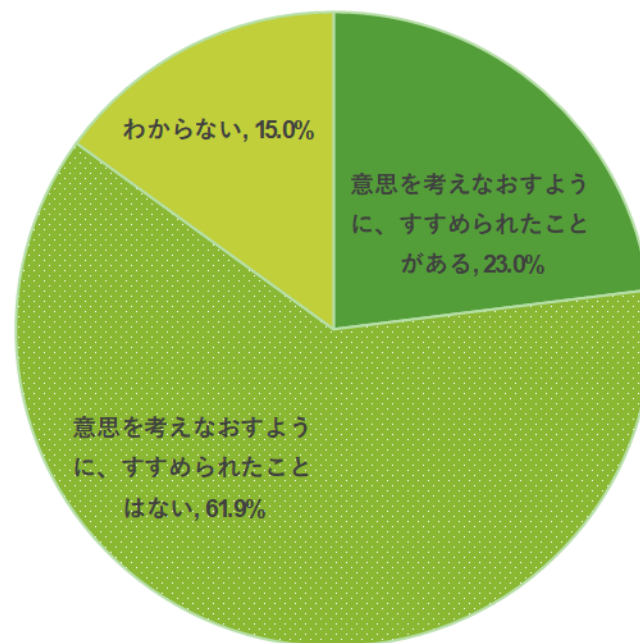
2-6. 進路選択における意思の表出

- ▶ 進路を決めるときに、「自分の意思を伝えることができた」という人が73.5%を占めている。
- ▶ 「意思を考えなおすように、すすめられたことはない」が61.9%を占めており、多くの軽度知的障害のある学生は進路に関して自分の意思を伝え、その意思を尊重されている。

問9 進路を決めるときにまわりの人に自分の意思を伝えられたか（1つ選択）



問10 進路を決めるときに自分の意思を話したら、相手から考えなおすようすすめられたか（1つ選択）

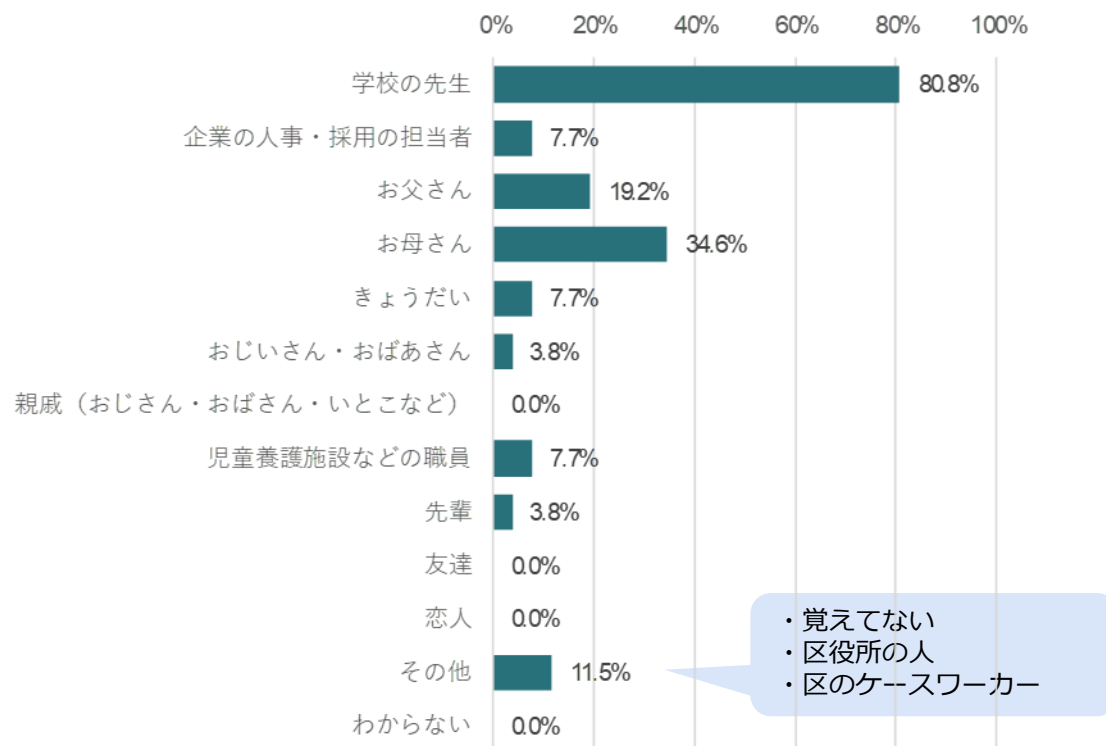


2-7. 意思形成への関与

- ▶ 意思を考えなおすようにすすめられた相手は、「学校の先生」が80%を超えており、次いで「お母さん」である。
- ▶ 「学校の先生」と「お母さん」は進路を考える際の主な相談相手であり、意思決定における重要な役割を担っている。

【意思を考えなおすようすすめられた方】

問11 進路を決めるときに、意思を考えなおすようすすめられた相手（複数選択）

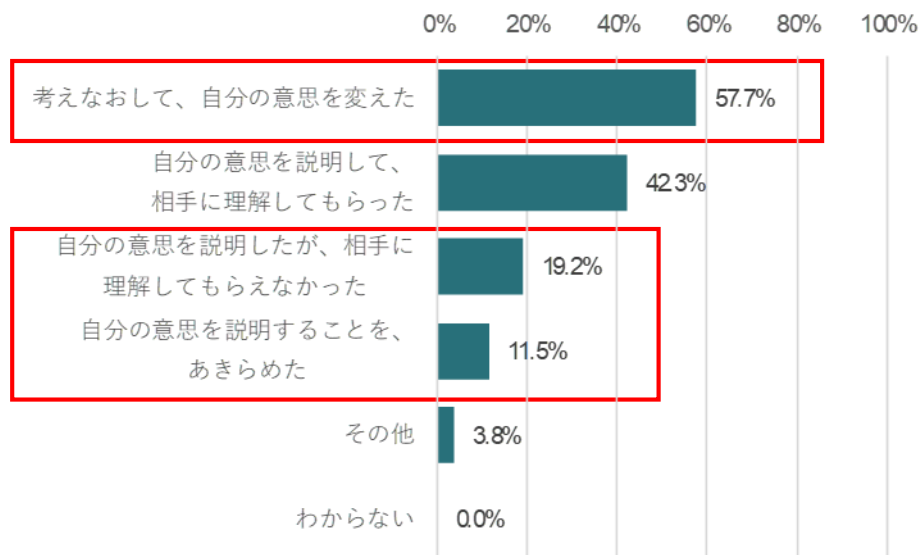


2-8. 意思形成への関与に対する影響

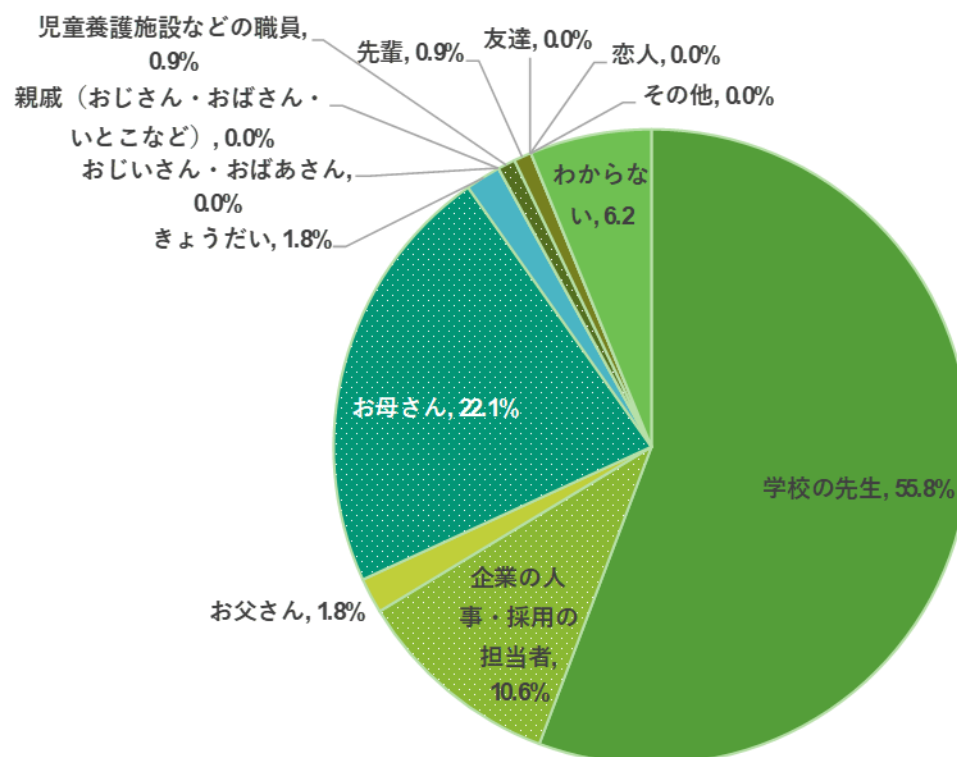
- ▶考え直すように勧められた後の対応では、自分の意思を説明して理解してもらった人が42.3%、一方で自分の意思を変えた人が57.7%。30.7%は理解してもらえなかったあるいは説明することを諦めたと回答。
- ▶進路を決めるときに一番、参考にした相手は「学校の先生」が過半数を占めており、進路決定には「学校の先生」が最も重要な存在であるといえる。

【意思を考えなおすようすすめられた方】

問12 意思を考えなおすようすすめられて、
どのように対応したか（複数選択）



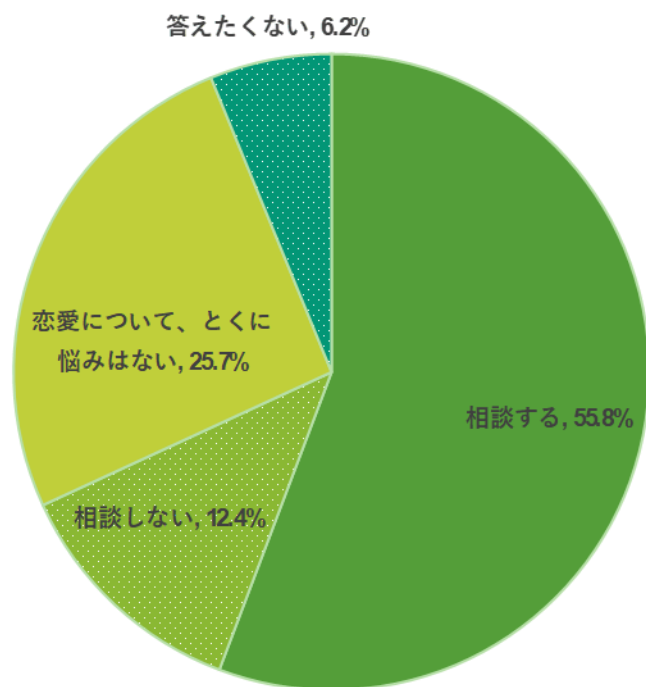
問13 進路を決めるときに一番、参考にした相手
（1つ選択）



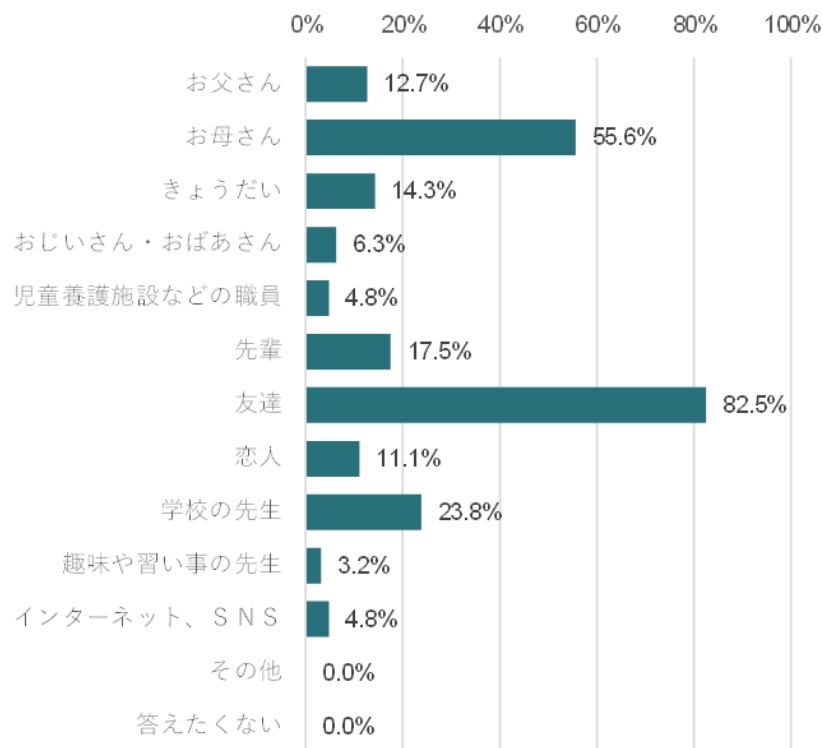
3-1. 恋愛・結婚についての相談相手

▶恋愛・結婚については友達が最も多く、次いでお母さんへ相談している人が多い。

問14 恋愛の悩みを誰かに相談するか
(1つ選択)



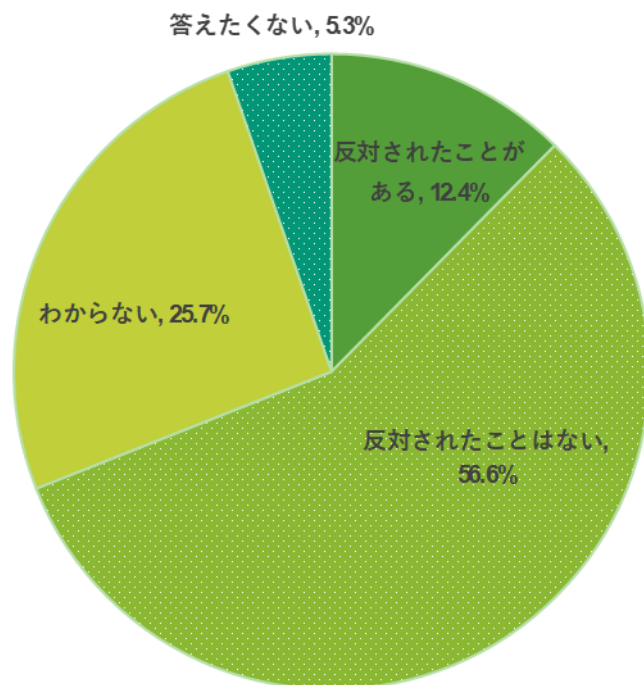
【恋愛の相談をする方】
問15 恋愛について相談する相手 (複数選択)



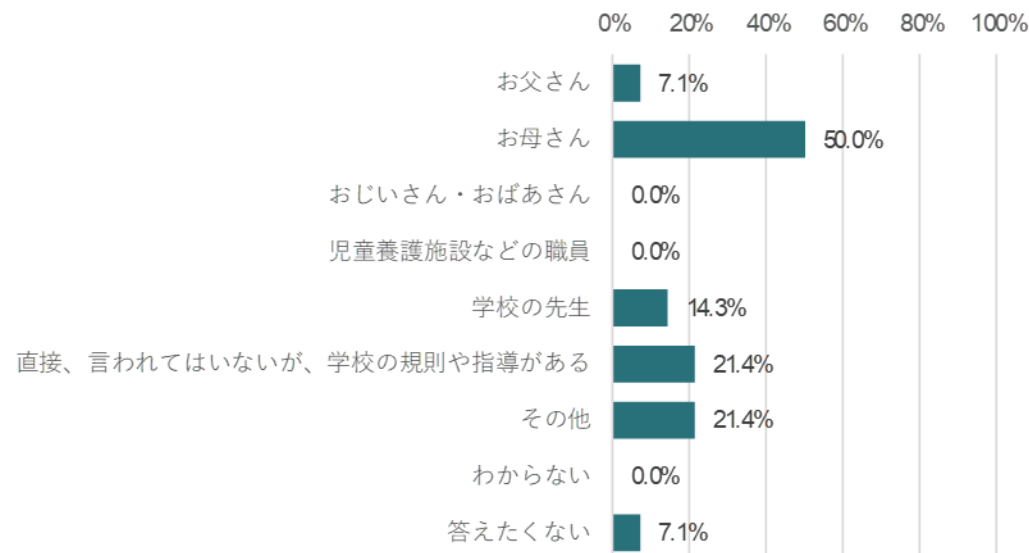
3-2. 恋愛についての関与

- ▶恋愛について誰かに反対されたことがあるかについては、「反対されたことはない」が過半数であるが、「反対されたことがある」と回答した人は12.4%。
- ▶反対した相手は、「お母さん」が最も多い。

問16 恋愛について誰かに反対されたことがあるか（1つ選択）



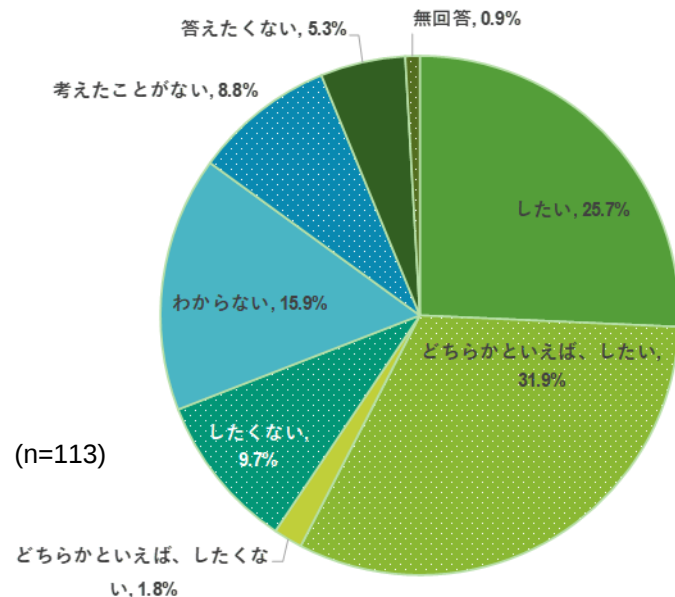
【恋愛について反対されたことがある方】
問17 反対した相手（複数選択）



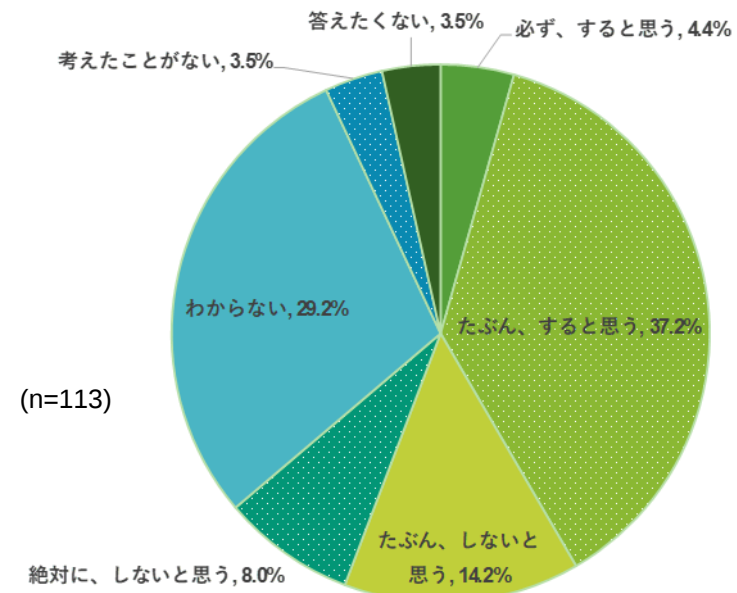
3-3. 結婚したいか・実際結婚すると思うか

- 将来、結婚したいと思うかについては、「どちらかといえば、したい」が3割で最も多く、次いで「したい」が2割半となっており、6割近くが結婚したいと考えている。
- 将来、結婚すると思うかについては、「たぶん思うと思う」が3割半で最も多いものの、「わからない」も3割と多くなっている。

問18 将来、結婚したいと思うか
(1つ選択)



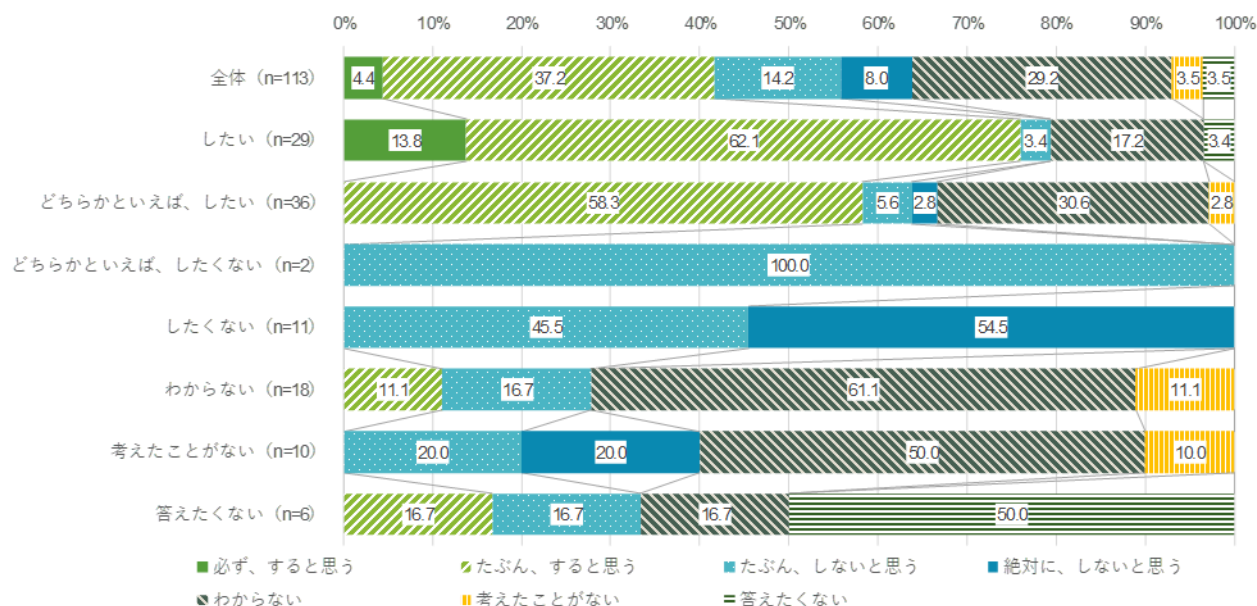
問19 将来、結婚すると思うか
(1つ選択)



3-4. クロス集計-結婚したいか・実際結婚すると思うか

- 将来、結婚を「したい」、「どちらかといえば、したい」と回答した人の6割が、自分が結婚を「たぶん、すると思う」と考えている。
- しかし、結婚を「どちらかといえば、したい」と回答したうち3割の人が、結婚すると思うか「わからない」と回答しており、結婚に対する希望はあるものの、結婚が実際にできるという見通しのギャップがあることがうかがえる。

問18 将来、結婚したいと思うか×問19 将来、結婚すると思うか（1つ選択）

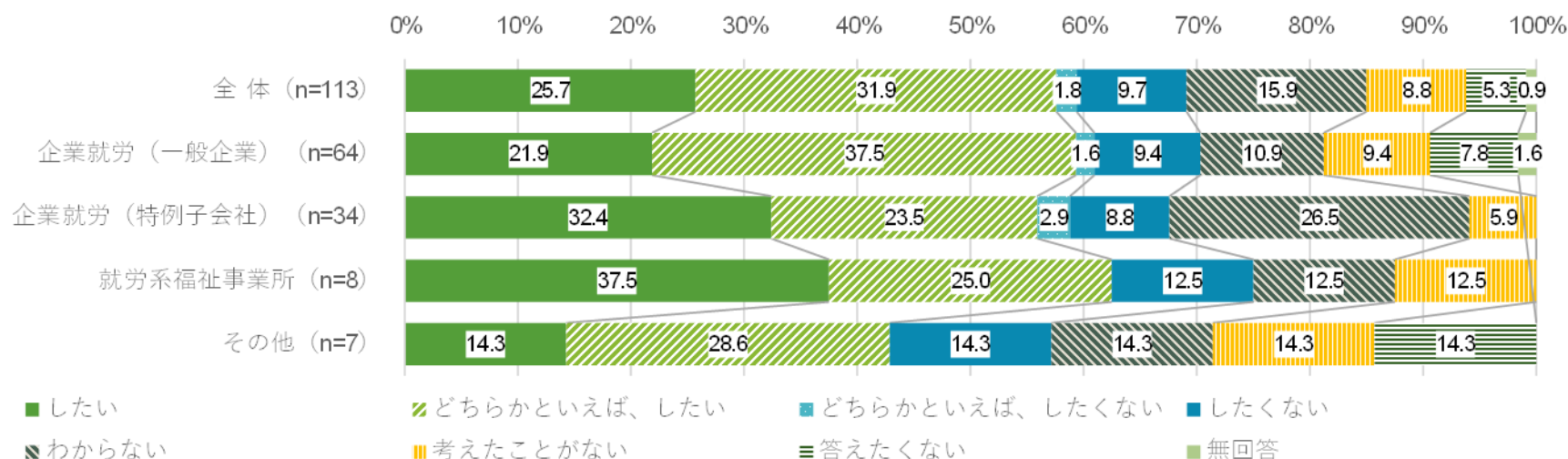


※ 帯グラフでは回答のなかったことを表す0%は表示していない。

3-5. 就労と結婚願望

▶「結婚したい」と「どちらかといえばしたい」の割合の合計をみると、就労系福祉事業所62.5%、企業就労（一般企業）59.4%、企業就労（特例子会社）55.9%、その他42.9%の順となっていた。卒業後の進路が決まっている学生の55%以上が結婚したいと考えていることが明らかとなった。

▶「結婚したい」の割合は、企業就労（特例子会社）と就労系福祉事業所が3割以上、企業就労（一般企業）と企業就労（特例子会社）が2割以上、その他が1割以上となっている。卒業後の進路が確定していないと、結婚もイメージしにくいことがうかがえる。



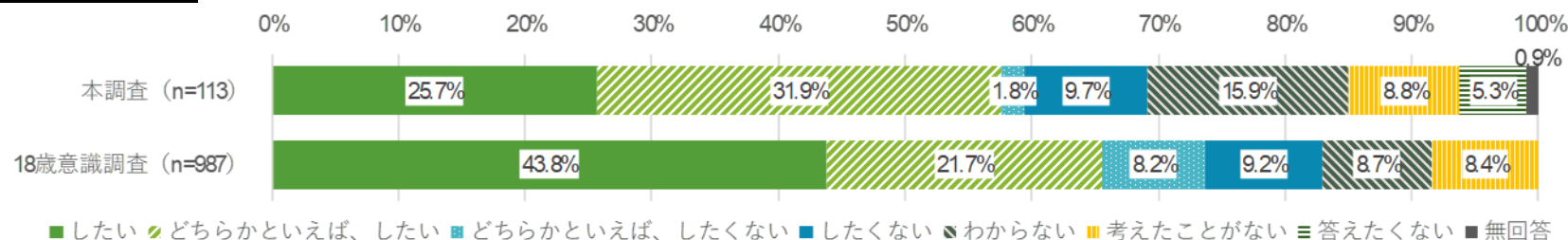
3-6. 結婚願望_日本財団18歳意識調査との比較

▶結婚したいと思うかについては、「したい」と「どちらかといえば、したい」を合わせると、結婚したいと思う割合は本調査が57.6%、18歳意識調査が65.5%であり、どちらも結婚することに前向きな人が多い。

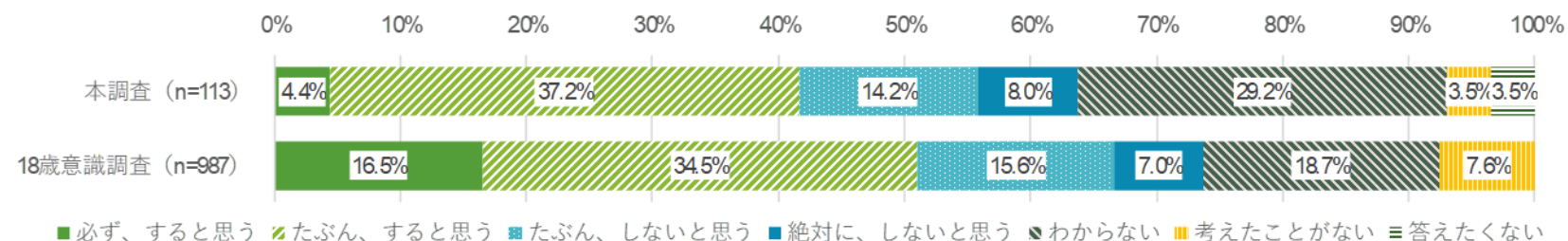
▶一方、結婚すると思うかについては、「必ず、すると思う」が、18歳意識調査が16.5%に対し、本調査では4.4%に留まっている。

▶結婚すると思うかについては本調査では「わからない」の割合が高く、結婚に対する希望と実際の差が大きいことが分かった。

将来、結婚したいと思うか（本調査と18歳意識調査との比較）



将来、結婚すると思うか（本調査と18歳意識調査との比較）



※1 出典：日本財団（2023）18歳意識調査「価値観・ライフデザイン」

https://www.nippon-foundation.or.jp/wp-content/uploads/2023/01/new_pr_20230106_01.pdf

※2 18歳意識調査では「答えたくない」という選択肢は設けていなかった。また、無回答もなかった。

4. まとめ

1. 相談相手の偏りと地域とのつながりの重要性

進路の相談相手としては、「学校の先生」が92.7%、「お母さん」が85.4%であり、恋愛や結婚については「友達」が82.5%と最も多くなっています。一方で、「お母さん」に相談する人も55.6%と次いで多く、高校在学時から学生の相談相手が母親や学校関係者に偏っていることがわかります。国連の障害者権利条約においても、本人が信頼する複数の支援者と協力しながら意思決定を行うことが推奨されており、より広い社会とのつながりを持ちながら様々な意思決定を行っていくことが重要だと思われます。

2. 進路決定時の自己決定とその尊重

進路を決める際に「自分の意思を伝えることができた」と答えた人は73.5%にのぼりました。また、「意思を考え直すように勧められたことがない」と答えた人は61.9%を占めており、進路選択において意思表示ができている学生が多いことがわかります。さらに、考え直すように勧められた後の対応としては、「自分の意思を説明して理解してもらった」と答えた人が42.3%を占めています。

3. 結婚への意識

将来、結婚したいと思うかについては、「どちらかといえば、したい」が31.9%で最も多く、次いで「したい」が25.7%となっており、57.6%が結婚に関心を持っていることがわかりました。一方で、全国の17歳～19歳の男女と比較すると、「必ず結婚すると思う」と答えた人が全国では16.5%であるのに対し、本調査ではわずか4.4%にとどまっており、将来の結婚に対する見通しには差があることが示されています。

【参考】 その他調査結果について

調査の結果 主なクロス集計等の結果

- 特例子会社に就職する人は、企業の説明会等から情報を収集している割合が88.2%と最も高く、さらに、インターネットを利用している割合も41.2%と高かった。特例子会社は、自社のサイトを持っていることが多いため、軽度知的障害のある学生が、情報にアクセスしやすく、会社情報を得やすい環境にあると考えられる。
- 一方、一般企業のサイトは、障害者雇用に関する情報以外の情報も多数、掲載されているため、知的障害のある学生にとっては、欲しい情報を見つけにくくなっていることが懸念される。
- 障害のある学生は、自身と同様の障害を持ちながら活躍している先輩社員の声等を知りたいと思っているが、現状、紹介事例が身体・精神・発達に限られがちで、知的障害のある社員の事例の掲載が少ないため、ロールモデル等の情報の不足がうかがえる。

問2 高校卒業後の進路の予定×問6 進路を考えるときの情報収集先（複数選択）

	学校の授業	企業の説明会、見学会、体験会、現場実習	企業の人事・採用の担当者	インターネット（サイト、メール、SNS、YouTubeなど）	冊子・パンフレット	その他	わからない
全 体（n=113）	66.4%	69.9%	8.8%	26.5%	8.0%	1.8%	0.9%
企業就労（一般企業）（n=64）	68.8%	60.9%	9.4%	18.8%	7.8%	1.6%	1.6%
企業就労（特例子会社）（n=34）	64.7%	88.2%	8.8%	41.2%	5.9%	0.0%	0.0%
就労系福祉事業所（n=8）	62.5%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他（n=7）	57.1%	57.1%	14.3%	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%

※『就労系福祉事業所』は「就労移行支援」と「就労継続支援事業所B型」、『その他』は「まだ決まっていない」と「わからない」をまとめている。

調査の結果 主なクロス集計等の結果

- 進路に関わらず、進路を考えるときには主に学校の先生とお母さんに相談している。
- しかし、一般企業に就職する人は、特例子会社に就職する人よりも友達や先輩など幅広い人に相談している。

問2 高校卒業後の進路の予定×問8 進路を考えるときに相談した相手（複数選択）

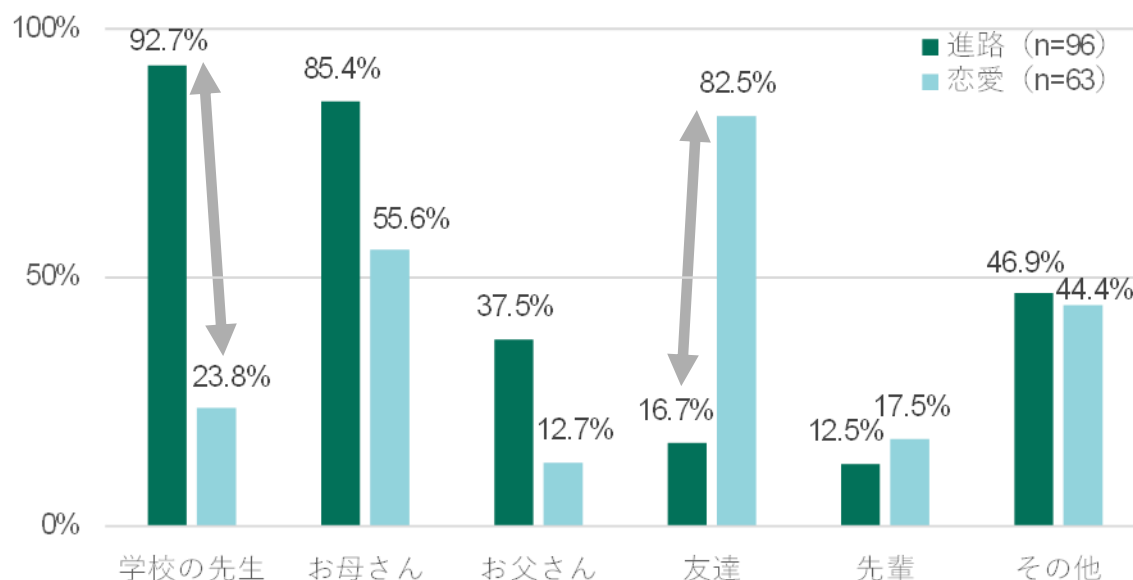
	学校の先生	企業の人事・採用の担当者	お父さん	お母さん	きょうだい	おじいさん・おばあさん	親戚（おじさん・おばさん・いとこなど）	児童養護施設などの職員	先輩	友達	恋人	その他	わからない	平均選択数
全体（n=96）	92.7%	9.4%	37.5%	85.4%	10.4%	10.4%	5.2%	6.3%	12.5%	16.7%	3.1%	2.1%	0.0%	2.9
企業就労（一般企業）（n=57）	94.7%	10.5%	38.6%	84.2%	10.5%	14.0%	5.3%	7.0%	17.5%	19.3%	3.5%	3.5%	0.0%	3.1
企業就労（特例子会社）（n=28）	89.3%	7.1%	39.3%	89.3%	0.0%	3.6%	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	3.6%	0.0%	0.0%	2.5
就労系福祉事業所（n=6）	100.0%	0.0%	33.3%	83.3%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7
その他（n=5）	80.0%	20.0%	20.0%	80.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8

※ 『平均選択数』とは、「学校の先生」～「その他」を1人の回答者が選択した数の平均値である。

調査の結果 主なクロス集計等の結果

- 進路を考えるときの相談相手と、恋愛の相談相手を比較すると、主な相談相手は学校の先生、お母さん、お父さん、友達、先輩である。
- しかし、学校の先生は進路の相談をされる割合が非常に高いものの、恋愛について相談される割合はそれほど高くない。
- 一方、友達は進路の相談をされる割合は高くないものの、恋愛についてはもっとも相談される割合が高い。
- お母さんは進路、恋愛ともに相談される割合が高い。
- 進路については知識や経験から正確な情報を提供してくれる相手、恋愛については共感して共に悩んでくれる相手を区別して相談していると考えられる。

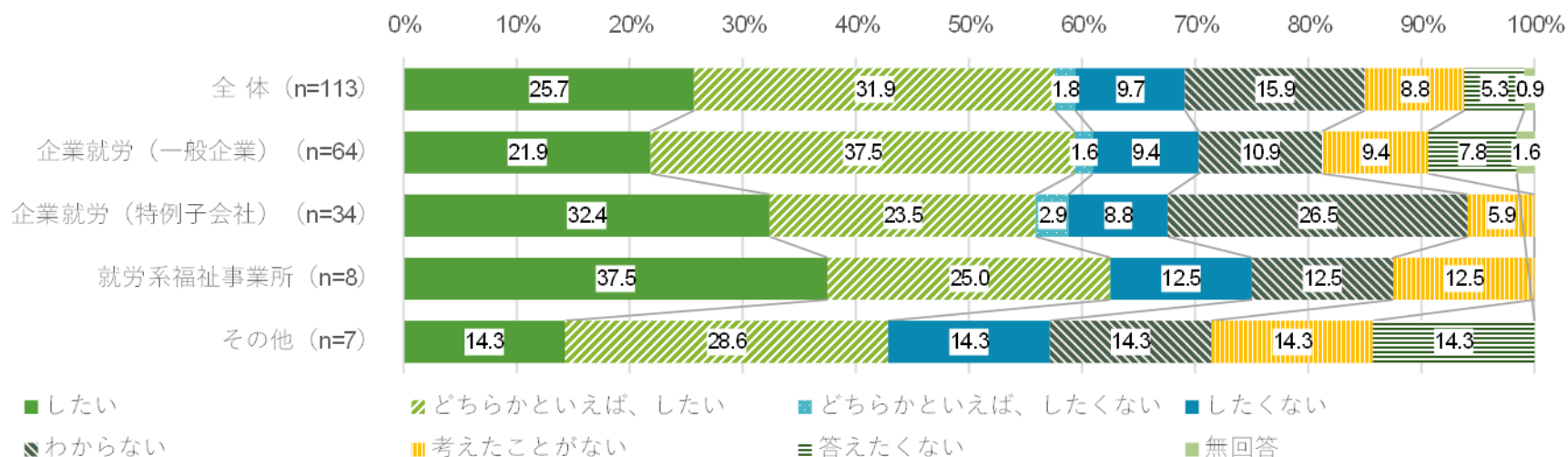
相談相手の有無（進路と恋愛との比較）



調査の結果 主なクロス集計等の結果

- 「結婚したい」と「どちらかといえばしたい」の割合の合計をみると、就労系福祉事業所62.5%、企業就労（一般企業）59.4%、企業就労（特例子会社）55.9%、その他42.9%の順となっていた。卒業後の進路が決まっている学生の55%以上が結婚したいと考えていることが明らかとなった。
- 「結婚したい」の割合は、企業就労（特例子会社）と就労系福祉事業所が3割以上、企業就労（一般企業）と企業就労（特例子会社）が2割以上、その他が1割以上となっている。卒業後の進路が確定していないと、結婚もイメージしにくいことがうかがえる。
- 4つの類型とも、「どちらかといえば、したくない」「したくない」「わからない」「考えたことがない」「答えたくない」が一定割合いる。恋愛・結婚は個人的なデリケートな事項であるものの、進路先も高校生の希望を把握しておくことは重要である。

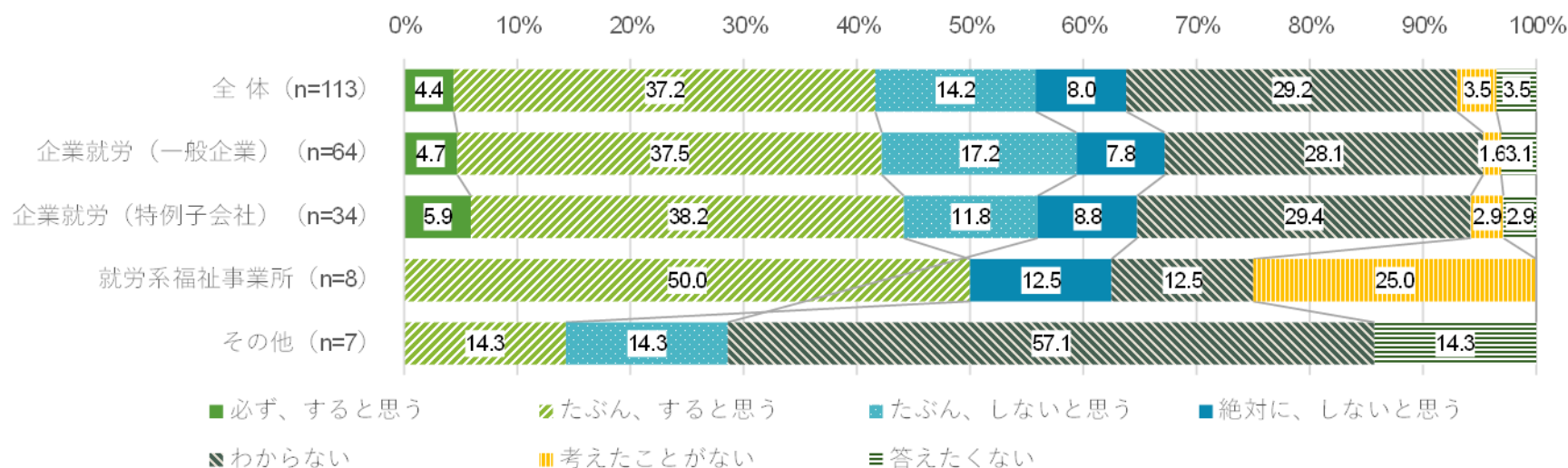
問2 高校卒業後の進路の予定×問18 将来、結婚したいと思うか（1つ選択）



調査の結果 主なクロス集計等の結果

- 将来、結婚すると思うかについては、一般企業と特例子会社に就職する人、就労系福祉事業所に進む人は、「たぶん、すると思う」が約4～5割で最も多い。その他では、「わからない」が約6割で最も多い。
- 一般企業と特例子会社に就職する人は同様の結果となっていて、「必ず、すると思う」は約5～6%にとどまる。
- 進路に関わらず、結婚したいという希望（問18）と結婚するという見通し（問19）のギャップが大きくなっている。
- 「わからない」が就労系福祉事業所以外では、約3割～6割近くと高い。「わからない」の割合が高い理由として、軽度知的障害のある学生が、自分と同様の障害のある人が実際に結婚して、生き生きと生活している事例を身近に知らない、あるいはマスコミやインターネット等でも見たり聞いたりした経験が少ないことが考えられる。

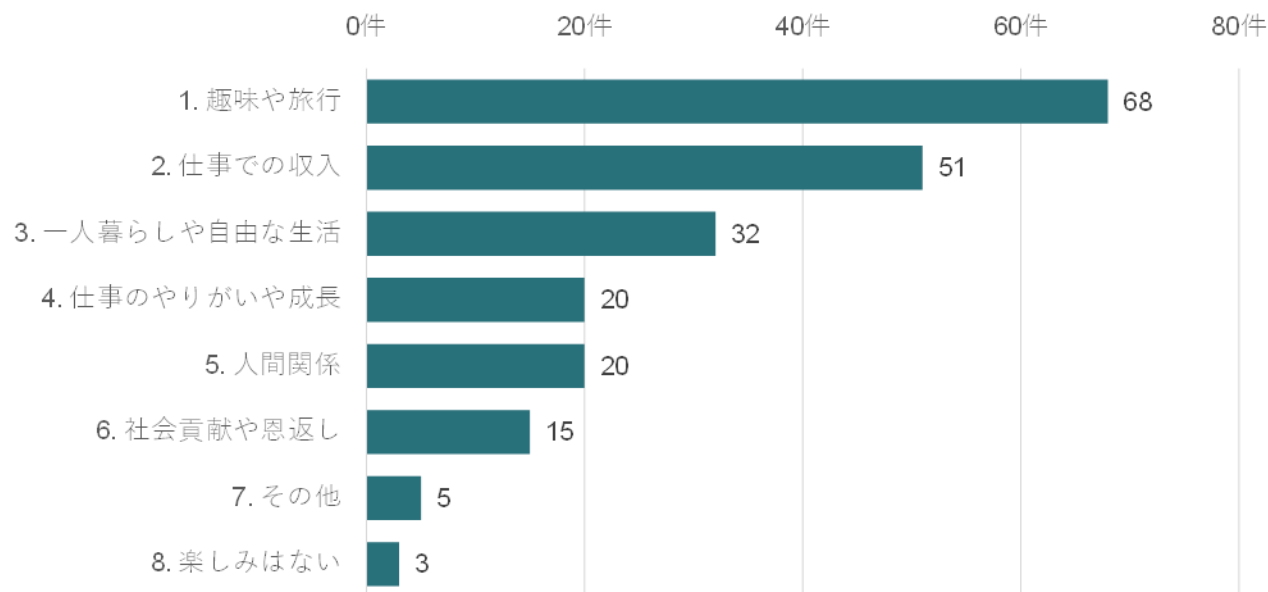
問2 高校卒業後の進路の予定×問19 将来、結婚すると思うか（1つ選択）



調査の結果 卒業後に楽しみにしていること

- 高校を卒業した後、社会に出て楽しみにしていることについて、自由記述で回答を求めたところ、「1. 趣味や旅行」、「2. 仕事での収入」、「3. 一人暮らしや自由な生活」、「4. 仕事のやりがいや成長」、「5. 人間関係」、「6. 社会貢献や恩返し」、「7. その他」、「8. 楽しみはない」の8カテゴリに分類することができた。
- 最も多く挙げられていたのは「1.趣味や旅行」（68件）である。次いで「2.仕事での収入」（51件）、「3.一人暮らしや自由な生活」（32件）である。
- 趣味や旅行などの娯楽だけでなく、仕事での収入や一人暮らしなど、卒業して働くことを意識している人が多いことがわかった。

問20 高校を卒業した後、社会に出て仕事や生活をするにあたって楽しみにしていること（自由記述）



(n=109)

※ 無回答の4人を除いた。

調査の結果 卒業後に楽しみにしていること

- 軽度の知的障害者は具体的な将来の楽しみを持っていることが明らかになった。
- 楽しみは1つだけでなく、いくつもの楽しみが組み合わされている。

カテゴリ別 卒業後の楽しみ（抜粋）

1. 趣味や旅行

- 給料を稼ぎ、ゲームハードやソフトを買う。 会員になって、好きなアーティストのライブに行く。 旅行をしたい。
- 自分のやりたいことリストがあってそのどれかを 叶えたいくらいなので頑張って働いて稼ぐようにしたいです。 あとは、一緒に旅行に行ったり、ディズニーに行ったりなどたくさんお出かけするのが楽しみです。
- 好きなアーティストのライブに行きたい。
- かんこうや、りょうこうなどの遠出すること。自分のやりたいことリストに書いていることをする。

2. 仕事での収入

- 社会に出て、金を稼ぎたい貯金したい、日本一周したい 趣味を少しずつ増やして行きたい、自分らしく生きていきたい意思決定をしたい
- 「卒業後、仕事をして、給料をもらえるようになる」「好きな食べ物やゲームを買うこと」
- 仕事をして頑張ってかせいだお金をよかに使ったり貯金していくのが楽しみです。
- 自分のお金でどれくらいの暮らしができるのか楽しみ

3. 一人暮らしや自由な生活

- 一人で暮らすのが楽しみです。
- 仕事とプライベートの両立でどのような生活を送れるのか楽しみです。
- 自分のやりたいことができるようになる
- 私が一番楽しみにしていることは一人暮らしをして犬をかうことがとても楽しみです。

※「1.趣味や旅行」については、「2.仕事での収入」や「3.一人暮らしや自由な生活」などと組み合わせられていない場合、「友達と卒業旅行 ケンタッキー食べ放題に友だちと行く ミスド食べ放題に友だちと行く バーガーキングに友だちと行く 」や「母とディズニーに行きたい。 家族と回転寿司に行きたい。 洋服を買いたい。」などといった社会に出てからのことではなく、直近の春休みの楽しみを挙げている人が多くみられた。

調査の結果 卒業後に楽しみにしていること

カテゴリ別 卒業後の楽しみ（抜粋） 続き

4. 仕事のやりがいや成長

- ・ 製造系の自分の得意なことを活かした仕事をして、生活ではたまに趣味で本を読んだり、工作をしたりして過ごしたいです。
- ・ 夢をかなえる事、いろんな場所ではたらいてベンキョウしたい。
- ・ 自分の力が社会に出てどれほど通用するか楽しみです。
- ・ 社会にでて、色々な仕事を、けいけんできる事が楽しみです。

5. 人間関係

- ・ いろいろな人との人間関係が築ける たくさんの業務にチャレンジできる 将来の暮らしを考えながら働ける
- ・ 給料がもらえること 交友関係が増えること
- ・ 職場での友人かんけい 家族や友だちと遊び お酒をのむこと
- ・ 会社の人たちとコミュニケーションを取ることです。
- ・ 恋人と一緒にいる予定 趣味にお給料を使う
- ・ 自分でかせいだお金で、家族を旅行につれていくこと。将来的に、家庭を築けたらいいなと思っています。

6. 社会貢献や恩返し

- ・ お金、趣味、人間関係、仕事のやりがい、社会や家族の役に立てること。
- ・ 給与をたくさん貯め先にお世話になった家族や兄弟にお金に寄付をしてまた給料をためて少しでも自分に使って行きたいと考えています。
- ・ お金をもらって親などにほしい物を買ってあげること。自分で自由にお金がかえる
- ・ しょにんきゅうで家ぞくへのおんがえしをしていきたい

7. その他

- ・ 英語を覚えられる様になりたい。
- ・ 免許や資格入手
- ・ 社会人になったら絶対に悪いことをしないようにしていきたいと思います。

8. 楽しみはない

- ・ 今のところ楽しみや予定はないです。
- ・ 特になし

調査の結果 卒業後に楽しみにしていること

- 卒業後に楽しみにしていることは複数のカテゴリが組み合わされている。
- 回答が多かった「1.趣味や旅行」や「3.一人暮らしや自由な生活」は、「2.仕事での収入」と組み合わされていることが多かった。（組合せ1、組合せ2）
- 仕事をして収入を得ることで、趣味や旅行、一人暮らしや自由な生活などを楽しみたいと考えている。
- 一方、「1.趣味や旅行」と「3.一人暮らしや自由な生活」の組み合わせも多かったが、どちらかが影響しているわけではなく、同じ楽しみの1つである。（組合せ3）

卒業後の楽しみ（複数の組み合わせ）

組合せ1) 1. 趣味や旅行 + 2. 仕事での収入

- 色々なことを体験していき、お金を稼いで車や趣味等をしていきたいと思っています
- 学校を卒業をして、仕事で稼いだお金で好きなものを買ったり、出かけたり、一人暮らしをするためにためたりすることができるのが楽しみです。
- 仕事をして頑張ってかせいだお金をよかに使ったり貯金していくのが楽しみです。

組合せ2) 3. 一人暮らしや自由な生活 + 2. 仕事での収入

- 自分で働いたお金で、旅行に行ったり、お金をためて一人暮らしをしたいです。
- 学校を卒業をして、仕事で稼いだお金で好きなものを買ったり、出かけたり、一人暮らしをするためにためたりすることができるのが楽しみです。（再掲）
- 自分のお金でどれくらいの暮らしができるのか楽しみ

組合せ3) 1. 趣味や旅行 + 3. 一人暮らしや自由な生活

- 自分の好きな家で、好きな車に乗って、好きなものを買う 一人旅とか、友達と飲み会とか 家族と旅行
- 趣味 ゲーム 推し活 一人暮らし
- ゲーセンとかジムに通うようになる 一人暮らし イベントに行く 一人旅行